



### 櫻村元市長が亡くなりました

元日立市長の櫻村千秋さんが8日亡くなりました。72歳でした。病氣療養中ということではない突然の死亡に、私を含め多くの市職員も驚いているところです。これをご覧の一般の方は、なぜ動物園のブログに元市長の悲しい報せが載るのか疑問をもたれるかと思いますが、櫻村さんは動物園のリニューアルを断行した立役者であります。もちろん市政全般において辣腕を振るわれ、都市基盤整備など数々の事業を手掛けられましたが、こと動物園に関しても、それまでには見られないテコ入れがありました。

櫻村さんが3期目に突入しようとする平成19年のある日のこと、突然私は市長室に呼ばれ「動物園長をやってくれないか」と声を掛けられました。「これまで何度やろうとしてもできなかった動物園の再生を、私のうちにやっておきたい」とも言われました。その前後から、市長はたびたび動物園再生を内外に向け話しており、事実、開園50周年を記念した第1弾の獣舎整備は予算も確定し、着工に向け動き始めていた時期でもありました。続けて「かなりの投資をするからしっかり実績をつくるように」とも釘を刺されました。



«50周年式典で、ロープを持つ左から2人目»

園長に着任してからも、元市長はたびたび私に直接電話をしてきました。ある時は市長室に呼ばれ「オスのキリンはどうした」と。平成18年にオスのキリンが亡くなってからメス1頭で飼育していたのでそれなりに各園に声は掛けていたのですが、当時はオスのキリンがなかなか見つからず苦労していた矢先でした。その旨を話すと、「そんなことはない、今すぐこの電話を使って心当たり片片端から掛けてみる」と畳みこまれました。さすがに市長室から電話はできないので何とか取り繕いましたが、やがて九州の動物園から入ることになったのは、こうした市長の強い意気込みに押された結果だと思っています。

またこんなこともありました。市長が姉妹都市であるニュージーランドのタウランガ市を訪れていた時のこと。やはり突然現地から電話が入り、「生江君、トゥアタラ知ってるか?」。「ハイ????」はじめ何のことかさっぱり意味が分からずまた聞き返すと「トカゲだよ」と市長。まだ新米園長だったこともあります。周りの飼育員に聞いても知らないと言うばかり。それを「飼ってみたいか」とはるか離れた異国の地から一言。いや、トカゲなら暖房など必要でしょうしそんな獣舎もないですと伝えると「こっちは冬でも海岸にゴロゴロしてるぞ」と。ちょっと調べてみます、といったん電話を切りましたが、これは和名「ムカシトカゲ」のことでトカゲと名はつくものの有鱗目のトカゲとは頭骨の特徴などが

違っており、ムカシトカゲ目としてヘビやトカゲの仲間とは厳密に区別されています。ニュージーランドにしか生息しない生きた化石ともいわれる非常に珍しい生き物で、日本の動物園で飼育されたことはありません。最終的に丁重にお断りしたのですが、今思えばワシントン条約で厳しく規制されている種ではあるものの、姉妹都市同士のトップ外交を頼みに、何とか入れる努力をしても良かったかな、とちょっと後悔しています。

このように、動物に関してはとても熱心で動物園再生には並々ならぬ熱意をもっておられる方でした。チンパンジーの森が完成し、そこで初めて繁殖に成功した時も非常に喜ばれ、人工哺育になっている期間中動物園を訪れ、赤ちゃんを抱っこし相好を崩されていました。リニューアルに関しても、こちらから次々とする予算をほぼ認めてもらい多くの獣舎再建が可能となりました。おかげで動物たちの環境は改善され、また来園者にとっても楽しく学べる環境が整いつつあります。そんな中、2012年に引き続き、今年も園としての総合的な取り組みが評価され市民ZOOネットワークの主催するエンリッチメント大賞を受賞することができました。こうしたきっかけをつくられたのも櫻村元市長だと言えます。



《チンパンジーの森開館式》

櫻村元市長は平成23年春に3期を務めたあと勇退しましたが、その後も動物園に関しては櫻村市政を継承して頂き、現在は地域創生事業として市の総合戦略にも取り上げられ来年の開園60周年を記念した新獣舎なども計画しているところです。多くのお客様からよく「動物園は変わりましたね」と声をかけていただきますが、その礎を築いたのが櫻村元市長です。エピソードはまだまだたくさんありますが、何かの機会にまた紹介するとして、最後に改めてご冥福をお祈りいたします。

お疲れ様でした、どうぞやすらかに・・・

2016年11月12日

---

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)